

土門拳写真展 昭和の子ども

ノエビア銀座ギャラリーにて開催

2017年3月21日～6月9日

写真家土門拳は、昭和20年代後半から30年代初頭にかけて、精力的に子どもを撮影しました。子どもたちがカメラを意識せずに自然な表情を見せるまで待ち、時間をかけて写していたといいます。家の外で生き生きと遊ぶ子どもたちが、町にあふれていた時代。無心に遊ぶ子どもたちの姿と笑顔は、幼い日々の記憶を蘇らせるだけでなく、時代を超えて私たちに力と希望を与えてくれます。



「笑う子」東京・昭和28年(1953)

土門拳写真展 昭和の子ども

あの頃、
笑顔があふれていた。

ノエビア銀座ギャラリー

土門拳（どもん けん）1909－1990 山形県生まれ

明治42年（1909）、山形県飽海郡酒田町（現・酒田市）に生まれる。写真館の門下生を経て昭和10年（1935）、「報道写真」を掲げる名取洋之助主宰の「日本工房」に入社（～14年）、対外宣伝誌『NIPPON』を中心に海外へ日本を紹介する写真を撮影。以後、脳血栓で倒れる昭和54年まで激動の日本を記録。『風貌』『古寺巡礼』『文楽』など人物や日本の伝統美を追求する一方、被爆者の実態に迫る『ヒロシマ』、閉山に追い込まれた炭鉱の困窮を訴える写真集『筑豊の子どもたち』を発表。1950年代に街頭で群れ遊ぶ子どもを集中的に撮影する。昭和56年、毎日新聞社が土門拳賞を創設。昭和58年、全作品を寄贈し、故郷の酒田市に日本初の写真美術館として土門拳記念館が開館。

～ 土門拳写真展「昭和の子ども」～ 《入場無料》

会 期：2017年3月21日（火）～6月9日（金）
 開 催 時 間：午前10時～午後6時（土・日・祝日は午後5時まで）
 会 場：ノエビア銀座ギャラリー（ノエビア銀座本社ビル1F）
 主 催：株式会社ノエビア
 お 問 合 せ：0120-401-001
 （月～金/午前9時～午後6時 土・日・祝日除く）

ノエビア銀座ギャラリーサイト <http://gallery.noevir.jp/>



東京都中央区銀座7-6-15

<マスコミの方からのお問い合わせ>

TEL 03-5568-0305 FAX 03-5568-0441 (株)ノエビアホールディングス 広報・IR部 後藤・森山